



自然環境守り 次の世代へ

このたび、「アマゾン群馬の森」の10周年記念式典が盛大に開催されますことを、心からお祝いします。「アマゾン群馬の森」は、地球環境の保全はもちろん、群馬県とブラジル、パラ州との国際交流においても、非常に重要な役割を担っています。わたしも以前に訪問しましたが、広大な自然を目の当たりにし、わたしたちをはぐくんできたかけがえのない財産を守り、伝えていかなければならないと再認識しました。

本市は、循環型社会のシステムづくりや環境教育の充実を目指し、平成16年に「環境都市宣言」を行い、翌年から「CO₂ダイエット宣言」にも参加しています。そうした意味でも、「アマゾン群馬の森」活動には、大きな期待をしています。

また、平成20年には、「全国都市緑化ぐんまフェア」が本市と高崎市を主会場として開催されます。これを機に、「水と緑と詩のまち・前橋」の豊かな自然を活用した魅力あるまちづくりを推進していきたいと考えています。（アマゾン群馬の森10周年記念式典、12月10日、前橋テルサ）

ふれあい 広場

ま え ば し シティフラッシュ



十二月十日、国際交流広場でアートコンペライプが行われました。一次審査を通過した現代アート三十一作品を作者が観客の前で説明し、審査するもの。ステージで繰り広げられる絶妙なやりとりに、会場は熱気で包まれました。

現代アートを公開で審査



風景画51点を展示

市収蔵美術作品展が12月9日から17日まで、市民文化会館で開かれました。田中青坪らの風景画51点を展示。10日には、県美術会常任理事の浅田萩石さんが作品を解説するギャラリートークも行われ、多くの人でにぎわいました。

にぎわったバザー

12月9日、第一体育館で歳末恒例の「福祉バザー」が開催されました。食器やタオル類などの日用生活雑貨を求める人たちが大勢訪れて、目当ての品々を両手いっぱい。この収益金は、地域福祉向上のために生かされます。



スポーツ通じ 楽しく交流

城南地区

泉沢町自治会のスマイルボウリング大会が、十二月十日、荒子小体育館で行われました。老若男女、百一人が参加し、班別で編成された十六チームが四レーンに分かれて熱戦。最初はゲートを通過させ、十本のピンを倒すのが大変でしたが、慣れてくると周りの声援にも後押しされ、ストライクが続出し、大いに盛り上がりました。



憩いの場清掃 笑顔こぼれる

本庁管内



十二月十七日、朝日町四丁目公民館の大掃除が行われました。会議や趣味のサークルなどで毎日使われるため、一年のあかを落とそうと毎年歳末に実施。町の役員をはじめ六十人が参加し、持ち寄った掃除用具を手に、てきぱきと進めていきます。きれいになるにつれ、すがすがしい笑顔がこぼれ、会話が弾みました。古川康和自治会長は「自主的に参加してくれる人も多く、とてもうれしいです。町の憩いの場を大切にし、みんなが楽しめる活動を進めたいです」と話していました。



作文コンクールで全国入賞

中谷 桜さん(10)
粕川町込皆戸

代々伝わる米作りに感謝を

第三十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール^①の作文二部で、全国農協家に帰ると、母が入賞したことを教えてくれました。中央会長賞に選ばれた。「十二月の初め、学校から家に帰ると、母が入賞したことを教えてくれました。中央会長賞に選ばれた。」

とを教えてくださいました。これまで、得意な絵でコンクールに入賞したことはあつたけれど、作文ではなかったのびつくり。家族みんなで褒めてくれたんです。作品は四百字詰め原稿用紙三枚分で、題は「命のリレー」。亡き祖父の思い出を中心に、家に代々伝わる米作りの苦労とそれを守り続ける家族への感謝の気持ちを書いた。「家族を手伝って田植えを体験してみても、昨年亡くなったおじいちゃん、苦労が重くても分りました。苗箱はとて重くて、手が痛くなつちやうた。でも、こうした苦労が積み重なって、毎日家で食べるおいしいお米ができるんだなって、感謝でいっぱいになりました」